

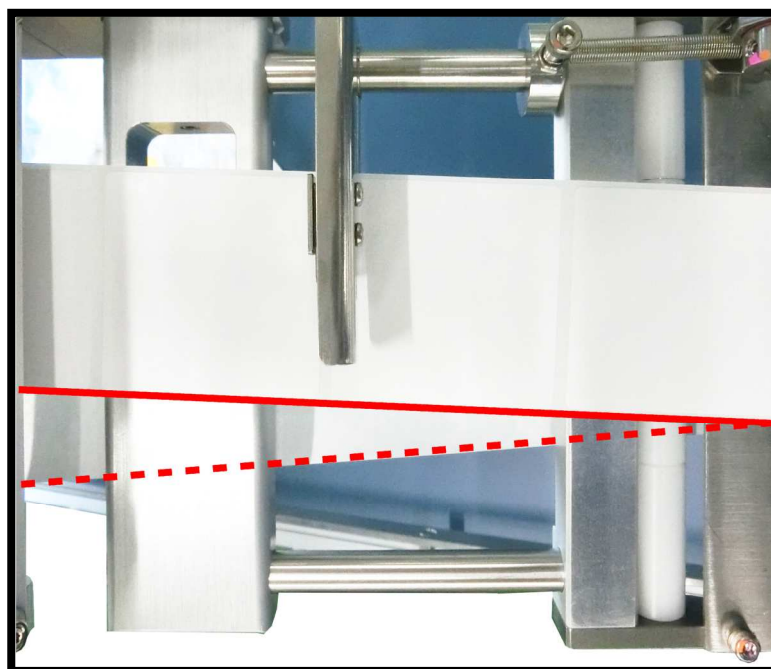
ラベル蛇行調整手順

AUTOMATIC LABELING SYSTEM

LA-5 シリーズ



本機を末永くお使いいただくために、またトラブルや故障を未然に防ぐためにも、日常のお手入れが必要です。作業終了後は、毎日清掃して常に清潔に保つよう to してください。



<蛇行が発生し、以下の症状が見られる際にご参照ください>

- 商品に貼付したラベルが斜めになる
- 商品に貼付したラベルにしわが発生する
- 貼付作業中にラベルおよび台紙が破れる

ラベル蛇行を調整する



警告

- 調整を行う前に、操作パネルとコンベヤの電源スイッチを切ってください。ラベラーの駆動部やコンベヤベルトに、手を巻き込まれる可能性があるため危険です。
- 駆動部周辺は高温になっている場合がありますので注意してください。火傷の原因となることがあります。

< 調整前の確認と処置 >

以下を確認し、ラベルの蛇行が解消する場合、調整を行う必要はありません。

- ラベル経路上のローラーや、剥離プレートにラベルの粘着成分や埃、ゴミ等が付着していないか、確認してください。
- フィードローラーが摩耗し、ラベルが接触する部分が凹んでいないか確認してください。摩耗している場合、フィードローラーは新しいものに交換してください。
- ラベル経路上のローラー部分のガイドリング、または剥離プレート上のガイドがラベルに対して内側に入りすぎていないか、確認してください。ラベルの幅に合わせて、それぞれ位置を調整してください。

■ 作業開始前にご準備頂くもの

- ① 六角レンチセット
- ② スケール(物差し)
- ③ スパナ(8)

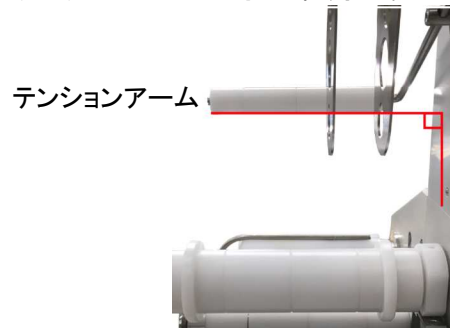


1 操作パネルとコンベヤの電源を切ります。

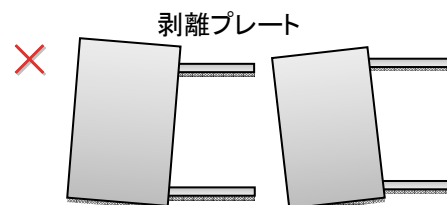
2 調整前のラベラーの状態を確認します。

- テンションアーム、剥離プレート、ラベルセンサーブラケットなどが斜めになっていないか、ネジ緩み・干渉など無いか確認します。
- 異常があれば取り付け位置の調整を行います。
- ローラーや剥離プレートなどに汚れが有れば清掃してください。

■ラベラーフレームに対して直角であること



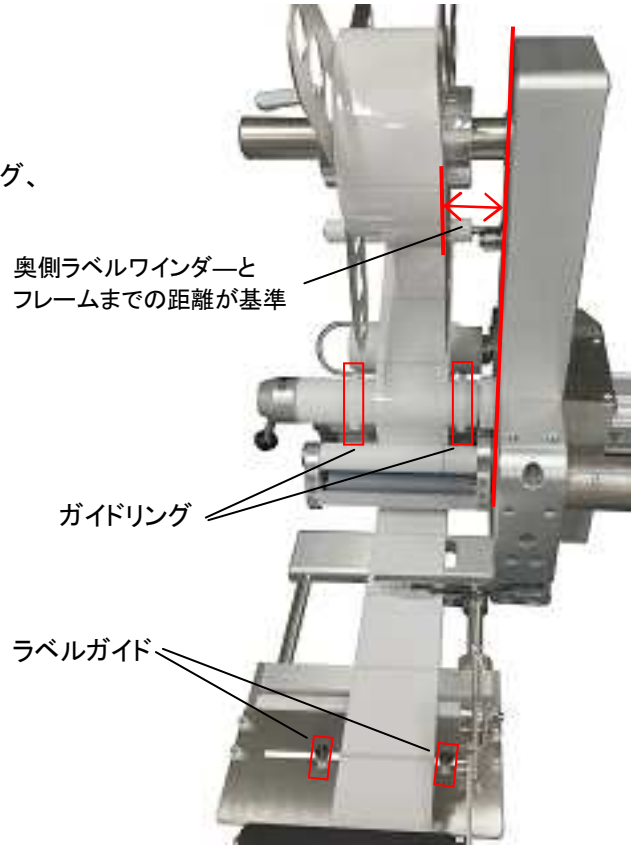
■斜めに取り付けられていないこと



ラベルセンサーブラケット

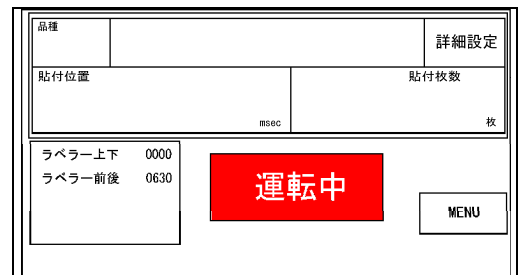


- ラベラーフレームから奥側ラベルワインダーの内側までの距離が基準となります。仮に 30mm とします。
- それぞれ奥側のガイドリング、ラベルガイドは基準 30mm よりも奥に配置し、手前側のガイドリング、ラベルガイドはラベルの手前端より外側に配置します。
- ガイドリング、ラベルガイドが基準より手前側 (30mm以上の位置)に有ったり、ラベルの手前端より内側に有る場合はラベルに負荷が掛かり、蛇行の原因となります。



3 操作パネルの電源を入れ、ラベラーを運転中にします。

- この時点で前項までの状態確認と、各部の修正により蛇行が改善されているかラベルを繰出して確認して下さい。
- 改善されている場合は、項目6へ進んで下さい。



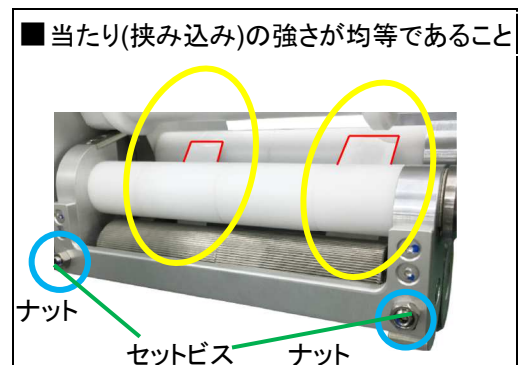
4 ラベラーの各ローラーの当たりを確認します。

- テフロンローラー・ローレットローラーの当たり(挟み込む強さ)を確認します。ラベル台紙などをローラーの手前側・奥側に挟み、引っ張ることで確認します。
- 当たりが均等でなければ手順 5.当たり調整を行います。均等であれば手順 6.蛇行調整を行います。



5 ローラーの当たりを調整します。

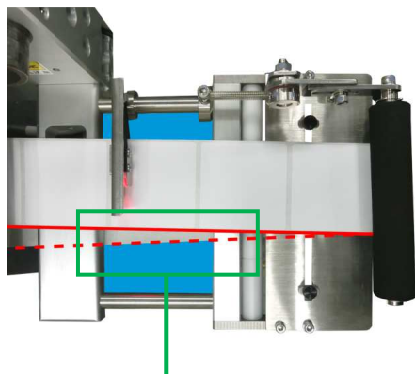
- 当たりが均等でなければ、挟み込みが強い方のナットをスパナで緩め、手前側と奥側のローラーの当たりが均等になるようにします。均等になれば、セットビスが回らないように固定してナットを締めます。【セットビスを回す方向】



6 蛇行調整を行います。

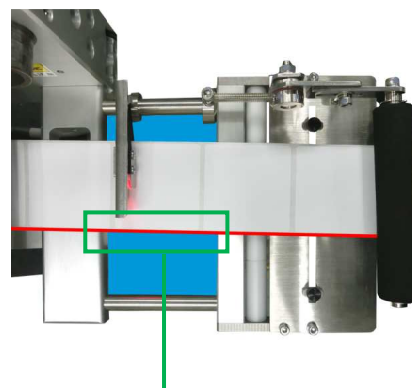
- 実際にラベルを繰り出し、ラベルの走行ラインを確認します。蛇行している場合は調整を行います。
- ラベルが寄っていく方向と、逆方向のローレットローラーの当たりを強くすることでラベルの走行ラインを調整することができます。

蛇行調整前



蛇行しているため、真上から確認したときラベルの経路がぴったり重ならない

蛇行調整後



蛇行が修正され、ラベルの経路がぴったり重なっている

7 調整完了後、調整した箇所のネジナットを締め直してください。

- ガイドリング、ラベルガイドはラベルワインダー—奥基準と、ラベル幅に合わせセッティングして下さい。